



文学部長
河西 良治
Ryoji Kasai

三つの力

大学に入学された皆さんに次の三つの力を身につけてほしいと私はこれまで何度も言ってきました。

三つの力:

集中力：一つのことを長時間にわたって
考えることのできる集中力。

忍耐力：好機や転機、また飛躍が訪れるまで
待つことのできる忍耐力。

創造力：行き詰ったときに新たな突破口を
創意工夫できる創造力。

今の時代は真剣に生きようとすれば、ほとんどの場合に行き詰ります。行き詰らないと自分に出会えない。行き詰ってこそ自分という人間に出会える。そして、そこから、どうやって新しい自分を創りだしていくかがその人の創意工夫になる。誤解のないように言っているつもりですが、行き詰ることがまずは大切だと思います。精一杯努力していないと行き詰ることはありませんから、精一杯努力して行き詰る。ここが出発点です。そこから、さて、どう進むか。人と相談するのもいい、書物や映画などにヒントや助けを求めるのもいい、そうしたもがきの中から新しい活路を見出し一歩踏みだしていく。そして、また行き詰る。このような行き詰りと活路の見出しの繰り返しのなかに、その人ならではの生きた個性が育っていく。したがって、行き詰って今の自分を知り、創意工夫をして新しい自分に出会う。この繰り返しが皆さんの一人ひとりのかけがえのない人格を創りあげていく。このような苦勞を重ねて創り上げた人材こそ今の社会が求めているものだと思います。

大学に入学されたばかりの皆さんにとって、まずは自分の専攻分野の学問と懸命に格闘することが大切です。先人が残してくれた人類の知的遺産である学問は皆さんを鍛え上げてくれる格好の教材であります。また、学問だけでなく、大学で出会う様々な人たちや日常の経験も皆さんに自分を考える機会を与えてくれる素晴らしい教材であると思います。自分と出会うきっかけに満ちているのが大学時代だと思います。大学は皆さんを応援します。がんばってください。



総合政策学部長
丹沢 安治
Yasuharu Tanzawa

“歓迎の言葉”

桜の花が咲く多摩キャンパスによろこそ。ここがこれからの4年間、皆さんの学業の研鑽と友人たちとの交友の場であり、生活の中心となる場です。これまでの受験やさまざまな高校での生活で培った能力をもって、この多摩キャンパスで何ができるか、何を学び取ることができるか、改めて考え、新たな人生を切り開く出発点としてください。

それを知るためには次の3つのことを考える必要があります。第1に皆さんの周囲の社会、経済の環境がどのような様子で、そこで新たな人生を切り開くためには何が必要で、何をすべきなのでしょう。第2に、この社会経済の環境の中で皆さんがこれまで蓄えてきた学力、友人らとの交流によって得てきた人間としての能力で何ができるのでしょうか。そして、第3に、足りないものやもっと鍛えなければならないものがあるならば、それは何でしょうか。

日本という国・地域は、すでに多くの点で優れた成熟した社会を実現していますが、しかし同時に少子高齢化、雇用の問題など多くの問題点も抱えています。また、先進国と新興国群が、世界のグローバル化、一体化によって、経済、社会、文化の領域で大規模な融合が始まり、いわゆるグローバル化が進行したということも皆さんを取り巻く環境の大きな特徴です。

皆さんがこのような社会・経済に存在する現実の問題を深く理解し、対処するための能力を身につけ、創造的な解決策をさぐる力が養われることを期待しています。